

# 一人一人の資質・能力の育成を目指す総合的な探究の時間の在り方

## —実態調査と探究のプロセスを重視した単元構想を通して—

調査研究チーム

### 《研究の要旨》

高等学校学習指導要領改訂を受け、総合的な探究の時間においては、探究のプロセスの重視と、自ら問いを見いだし、探究する力を育成することが求められた。そこで、本県の総合的な探究の時間の実態調査から見てきた課題を基に、研究協力校の実態に即して、総合的な探究の時間推進のための単元構想の提案をした。また、本県の課題である課題設定の指導法を中心に、具体的指導資料を作成するとともに、本研究の成果をより多くの高等学校の実践に生かせるよう、指導法のポイントを整理したリーフレットを作成した。

## I 研究の趣旨

社会が急速に発展する現代では、自ら課題を発見し解決する力、多様な他者と協働して解決する力等の資質・能力が求められている。その育成のため、問題解決的な学習が発展的に繰り返される探究的な活動が重要視されている。同様に、第7次福島県総合教育計画においても、本県の教育の柱として探究的な学びへの変革が位置付けられ、子供たちに必要な資質・能力を確実に育成することや、令和12年度までにすべての県立高等学校で地域の課題を解決するための探究学習等を実施することを目指すこととなった。

また、平成30年の高等学校学習指導要領の改訂において、名称が総合的な探究の時間に変更された。ここからも、探究的な活動の重要性がうかがえる。さらに、総合的な探究の時間の目標にある「総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」ことについては、各学校における教育目標を踏まえた目標設定が必要である。そして、その目標を実現するにふさわしい地域探究課題を設定し、その解決を通して、実社会や実生活の中で活用できる資質・能力の向上を目指す必要がある。

以上のことから、総合的な探究の時間における本県教員の実態を調査し、その課題解決に向けた取組を推進することとした。そして、見いだした課題の解決方法を含めた、総合的な探究の時間の在り方を発信していく。その際、各学校が目指す生徒一人一人の資質・能力の向上につなげるには、どのような地域探究課題がよいか、どのような単元構想をすれば実現できるかを明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究の概要

### 1 研究の目的

本研究の目的を、次のように設定した。

- 本県のすべての県立高等学校において、総合的な探究の時間の実態調査を行い、結果分析から、総合的な探究の時間の取組状況及び教員の意識を把握し、改善ポイントを明確にする。
- 学校として育成を目指す資質・能力に焦点を当て、探究活動の質的向上を図る総合的な探究の時間の単元構想の在り方を提案する。

### 2 研究の内容及方法

#### (1) 総合的な探究の時間についての実態調査と分析

総合的な探究の時間における実態把握と課題の洗い出しをするために、「高等学校総合的な探究の時間についての実態調査」を実施し、次の項目の分析を行う。

#### 【主な調査項目】

- ①総合的な探究の時間の学習で期待できる学習効果に関する項目
- ②総合的な探究の時間の学習における指導上の困難に関する項目
- ③探究の四つのプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）に関する項目

#### (2) 総合的な探究の時間におけるプロセスを重視した単元構想の在り方の提案

研究協力校（以下、協力校）2校において、実態調査の分析結果と学校の実態に応じて、改善内容を検討し、授業計画の支援や単元構想例の提案を行う。その際、第7次福島県総合教育計画で目指す、全県立高等学校における地域課題探究活動実施に寄与する研究となるよう、地域と連携し、地域の特徴を生かした探究プロセスや単元構想の構築に力を入れることとする。目指す探究活動のイメージは、図1のとおりである。

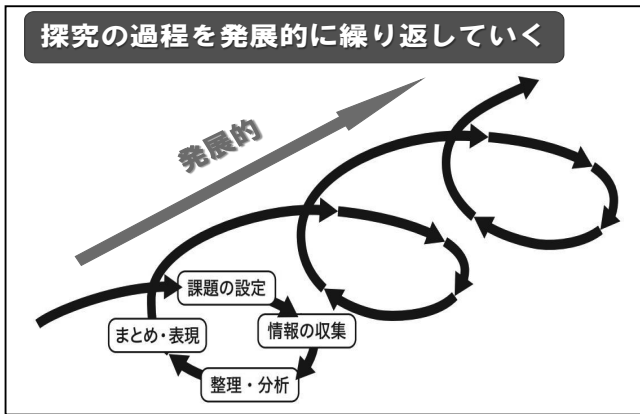


図1 目指す探究活動のイメージ図

### Ⅲ 研究の実際

#### 1 総合的な探究の時間についての実態調査と分析

##### (1) 実態調査対象者

県内高等学校教員のうち、総合的な探究の時間を担当する教員を対象とした。

##### (2) 実態調査の期間

令和4年7月上旬～中旬

##### (3) 実態調査の分析

1464名から得られた回答について分析した。内容は、以下のとおりである。

##### ① 総合的な探究の時間において期待できる学習効果に関する項目について

「総合的な探究の時間において期待できる学習の効果として、どのようなことが挙げられると思いますか。あてはまるものを三つ選んでください」と質問した。

14ある選択肢のうち、回答が多かった主な結果は、以下のとおりである(図2)。

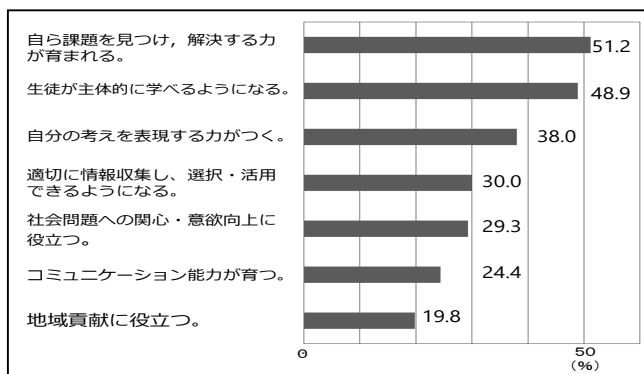


図2 期待できる学習効果

回答者の約半数が選んだ学習効果は、「自ら課題を見つけ、解決する力が育まれる」と「生徒が主体的に学べるようになる」の二つであった。探究活動を通して、生徒の課題発見・解決力と主体性が育成されることを期待している教員が多いことが分かった。

##### ② 総合的な探究の時間の学習における指導上の困難に関する項目について

「総合的な探究の時間の学習において、授業をする上で難しいと思う点はどのようなことですか。あてはまるものを三つ選んでください」と質問した。

10ある選択肢のうち、回答が多かった主な結果は、以下のとおりである(図3)。

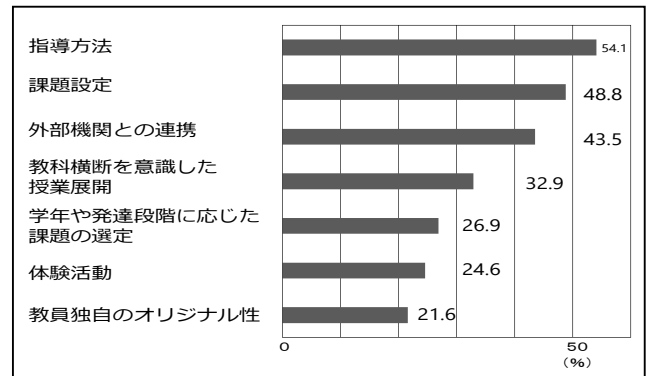


図3 指導上の困難

回答者の約半数が選んだ指導上の困難点は、「指導方法」と「課題設定」の二つであった。この結果から、総合的な探究の時間の指導全般における指導方法、特に、課題設定の指導法に難しさを感じている教員が多いことが分かった。

##### ③ 探究の四つのプロセスに関する項目について

前述の実態調査から、「課題設定」のプロセスについて課題が見えたため、このプロセスに関する四つの質問について分析した。結果は、図4のとおりである。なお、回答は「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえば違う」、「違う」の4件法で実施した。

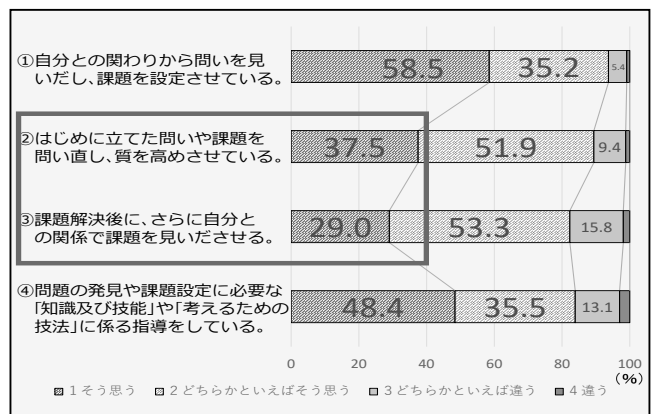


図4 課題設定についての意識

上記の①から④のすべての質問において肯定的な意見が多く、教員の意識の高さがうかがえる。「そう思う」と強い肯定をする教員の割合に目を向けると、①と④に比べ、「②はじめに立てた問いや課題を問い直し、質を高めさせている」と「③課題解決後に、さらに自分との関係で課題を見いださせる」が少ないことが分かる。本県

の高等学校教員は、問いの質を高めたり、新たな問いへとつないだりする課題設定の指導に、困難を感じていると推察できる。

さらに、探究のプロセス全体に係る実態調査の結果は、次のとおりである（図5）。

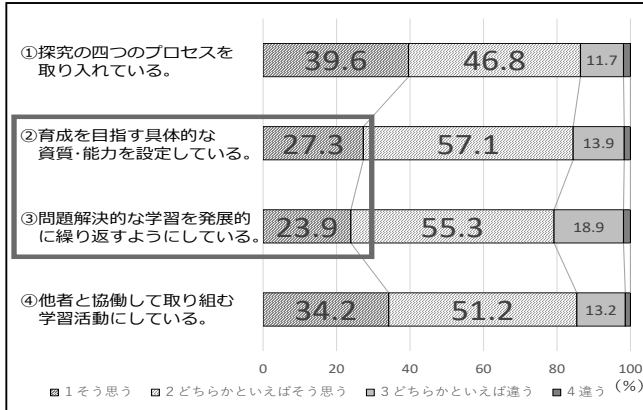


図5 探究のプロセス全体に係る意識

上記の①から④の質問でも、強い肯定の割合に目を向けると、①と④に比べ、「②育成を目指す具体的な資質・能力を設定している」と「③問題解決的な学習を発展的に繰り返すようにしている」が少ない。ここまでの結果と併せて考えると、教員は、探究活動による学習効果が高いことは感じているが、課題設定や発展的な探究プロセスの具体的な指導法について、不安を感じていることが分かる。

#### (4) 実態調査のまとめ

- 総合的な探究の時間の指導の在り方、特に、「課題設定」の指導について、難しさを感じている教員が多い。
- 各学校として育成を目指す具体的な資質・能力が明確にできていない。

高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編には、「課題設定」の重要性について、「必要に応じて、単元の総時数の3分の1程度を当てることも考えられる。十分な時間をかけて一人一人の生徒にとって価値のある適切な課題を設定することが大切である」と明記されている。また、「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していく」ことを重視することも示された。

そこで、本チームの研究では、協力校で育みたい資質・能力を明らかにし、それを育成するための単元構想を提案する。特に、本県の課題である「課題設定」のプロセスに焦点を当て、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくような単元構想を提案することとした。

## 2 研究協力校への提案

### (1) A高校（総合学科・第2学年の実践）

#### ① 実態

A高校では、第3学年において、進路に関する課題についての個人課題研究を行うことがカリキュラムに位置付けられている。そのために、第1学年では「産業社会と人間」で課題研究に必要な知識・技能を身に付け、第2学年では、プレ課題研究としてグループでの研究を行っている。

第2学年のグループ研究では、例年、修学旅行先についての課題を設定し追究していたが、総合的な探究の時間担当教員は、「もっと生徒の身近にあり、生徒自身と関わりのある地域の課題について追究させたい」という思いをもっていった。また、「生徒は総合的な探究の時間の学習に慣れており、見通しをもって活動しているが、探究の内容が深まらず、単なる調べ学習で終わってしまうことが多い」、「グループで追究させる課題設定が難しい」等の課題も挙げられていた。

#### ② 提案内容

問いの高度化を促すための、課題設定を重視した単元構想

A高校の実態を踏まえ、本チームでは、それぞれの探究のプロセスを充実させ、段階を踏んで問いの質を高めていけるような単元構想を提案した。中でも、特に「課題設定」に十分な時間をかけ、生徒が自分の問いを何度も見直し、探究に値する問いを自分たちで見出すプロセスを大切にしたいと考えた。小さな探究のプロセスを踏みながら、大きな探究のプロセスを進め、探究を深めていけるようにする（図6）。

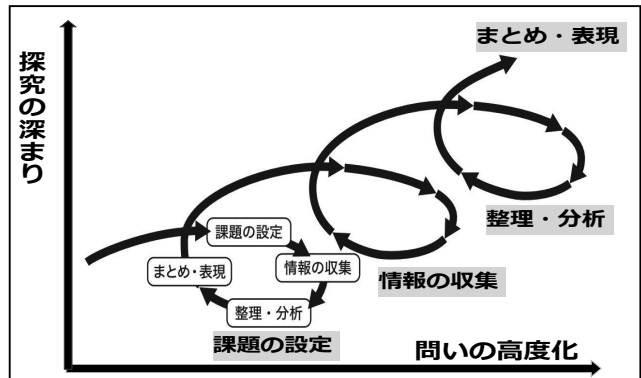


図6 「課題設定」を重視した単元構想

#### ③ 実際

##### ア 課題設定

探究は、生徒自身が知りたい・解決したいと思ったことを調査していく活動である。しかし、自分が何に興味があるのかが明確でない場合も多い。そこで、「課題設定

のコツ（資料1）」を手掛かりとして、問いそのものについて探究し、四つのステップで段階的に問いの質を高め、総合的な探究の時間に値する課題を自分で作り出せるようにした。

### 【STEP 1 問いの導出】

STEP 1では、まず、生徒がなるべく多くの問いを出せるように、「問いをたくさんつくるワザ」を提示した。

まず、「ワザ①」を使って、テーマと5W2Hを掛け合わせて問いをつくりやすくなった（図7）。例えば、Wでは、Whyという疑問符を付けてなぜ？という問いができる。

Step1 「問い」をたくさんつくる！

**ワザ①** 5W2Hで、思い浮かんだ「問い」を書き出そう。

テーマ：フードロスについて

Why	なぜ？	なぜこんなに多くの食料が捨てられているのか？
When	いつ？いつまで？	いつからフードロスは問題になったのか？
Where	どこで？	どこで食べ物が捨てられているのか？
Who	誰が？誰に？	誰が捨てているのか？
What	何が？何を？	フードロスとは何か？
How much	どのくらい？	給食の食べ残しはどのくらいあるのか？
How	どうやって？どのように？	どうやったら食べ物を捨てない仕組みが作れるのか？

図7 5W2Hによる問いの導出

次に、「ワザ②」では、時間軸、空間軸、立場軸の軸で比較し、発想を広げることによって、問いを生み出すことができた（図8）。例えば、時間軸では、昔と今の違いで考えるという問いができる。

Step1 「問い」をたくさんつくる！

**ワザ②** 比較して、さらに発想を広げてみよう。

テーマ：フードロスについて

<b>時間軸</b> 時間を考えてみると？ 今と昔の違いは？ 季節や時間帯の違いはあるのか？ 時代ごとの特徴はあるのか？	<b>空間軸</b> 場所を変えたり範囲を広げると？ 日本と海外では違いがあるか？ 都心と地方では？ この地域の周辺は？	<b>立場軸</b> 立場を変えてみると？ 作る人⇔使う人 外国人⇔日本人 子ども⇔大人 消費者⇔生産者
30年前も今と同じ量の食べ物が廃棄されていたのか？	先進国と発展途上国では、食品廃棄の現状はちがうのだろうか？	給食の残量をなくすために、給食ではどんな工夫をしているのか？

図8 比較による問いの導出

このような思考ツールの活用によって、生徒に内在している問いを引き出すことができた。

### 【STEP 2 問いの共有】

STEP 2では、個人の問いを友達と共有する場を設定した。STEP 1において個人で書いた付箋を模造紙に貼り出し、たくさん出た問いをKJ法で分類し、グループ化して整理した。

### 【STEP 3 問いの吟味】

STEP 3では、これらの問いを精選し、探究できそうな問いに絞り込む活動を行った。生徒は、グループで出し合った問いを、これから考えたり調べたりする価値がありそうな「探究できそうな問い」と、少し調べれば答えが出そうな「単純な問い」に分けた。その際、「探究できそうな問い」に○、そうでない問いに△を付け、分別した。また、すでに答えが分かっている問いはその答えを明記し、問いを吟味していった（図9）。

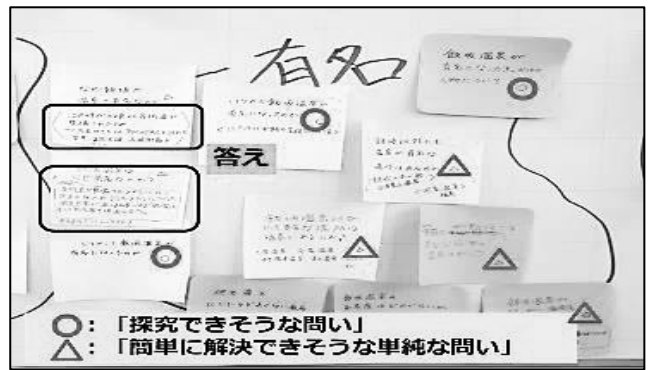


図9 グループによる問いの吟味

### 【STEP 4 問いの精選】

STEP 4では、いくつかの「探究できそうな問い」を整理して、グループの課題を決定した。ここでは、考えを可視化し、整理するために、クラゲチャートという思考ツールを活用した（図10）。

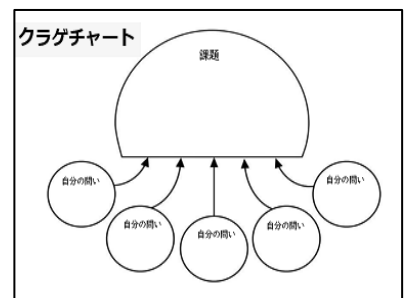


図10 クラゲチャート

あるグループは、「○○温泉とその他の温泉との違いはあるのか」等の問いを「探究できそうな問い」として絞り、これらを集約した。そして、「昔と今の○○温泉に来る人を比較し、現在、人が来るためにされている工夫について調べ、私たちにできることを研究する」というグループの課題を設定した。

### イ 情報収集

情報収集では、書籍やWebサイトによる文献調査だけでなく、フィールドワークやアンケート、インタビュー等、物事や事象を自分自身で調査する方法を考えさせたい。そのために、「情報収集のコツ（資料2）」を提示した。

生徒は、情報収集の方法を話し合う中で、「インタビューに行きたいけど、人数や件数を聞くだけで終わってしまう」、「この問いはインターネットでも答えは分かるかもしれない」等、自分たちの問いが探究する価値のあるものかを振り返りながら、情報収集の計画を立てていた。このように、自分たちの問いを何度も見直ししながら、「探究計画書」に、探究の見通しをまとめた。

### ウ 整理・分析

集めた情報は、そのままでは分析することができない。なぜなら、分析するためには、文字に起こしたり数値にまとめたりして、項目ごとに整理することが必要だからである。生徒は、「整理・分析のコツ（資料3）」を見な

がら、その方法を学んだ。調べた情報は、クラウド上の共同編集シートにまとめていった。このシートは、「課題設定」で決めたグループの課題と、自分の問いに対する探究の記録が入力できるようになっており、「調べながら入力できる」、「入力しながら整理・分析できる」、「そのまま発表資料として使える」という利点がある。また、同じグループの友達のスライドを自由に閲覧できるため、自分の調査内容と友達の内容を比べながら、結果をまとめることもできる(図11)。

さらに、整理・分析しながら学びを振り返ることで、情報収集不足や、調べていることと問いのずれ等に気づき、軌道修正を図ることができる。生徒は、探究のプロセスを双方向に往還することで、探究を深めていた。

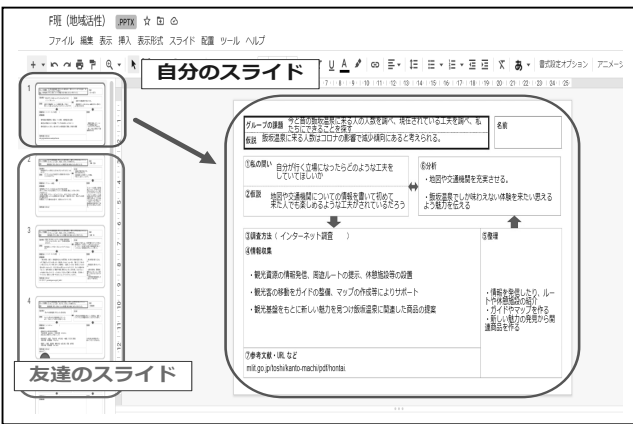


図11 共同編集シート

エ まとめ・表現

共同編集シートを使って、グループごとに研究発表を行った。生徒は、発表を聞きながら他のグループの考えと自分の考えを比較したり、互いに質問し合ったりすることで、自分の考えを深めていった。

その後、「振り返りのコツ(資料4)」を基に、これまでの自分の探究を振り返った。「校内アンケートの結果とインターネット調査の内容にずれがあり、みんなで考えて解決した」という探究のプロセスについての振り返りや「今回調べた福島の伝統食の魅力をSNS等で他県にアピールする方法はないだろうか」という新たな問いにつながる振り返りがあった。また、探究のプロセスを客観的に見つめ直す振り返りで、新たな自分の一面を発見し、自己理解を深める姿も見られた。

問いを高度化し、新たな問いを生み続ける探究のプロセスにより、生徒たちは、初めに立てた問いや課題を何度も問い直すことができた。これは、「課題設定力」という資質・能力の向上とともに、「コミュニケーション能力」、「情報活用能力」等が高まっていった生徒の姿と捉えることができる。

(2) B高校(普通科・第1学年の実践)

① 実態

B高校の総合的な探究の時間では、第2,3学年において、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という四つのプロセスでグループの「探究活動」が設定されている。その基盤として、第1学年では、「探究基礎」を位置付け、「探究活動」に必要な知識・技能を身に付けるカリキュラムとなっている。

これまでの授業では、主体的に課題設定できないまま授業が進んでしまっていた。生徒自ら課題を設定することや課題を自分事として捉えることが難しかったためである。教員たちは、この状況を打破するために、課題を設定する前段階として、問いを見いだすことを指導する必要性を感じていた。また、年度当初に、地元自治体から高校と連携した防災マップ作成の要請があり、それを総合的な探究の時間の中で実施することを検討していた。

② 提案内容

問いの自律化を促すための、課題設定を重視した単元構想

B高校の実態を踏まえ、本チームでは、それぞれの探究のプロセスを充実させ、段階を踏んで問いを自律的に導出していけるような単元構想を提案した。問いの自律化とは「生徒が自分との関係で課題を見だし、自己の在り方生き方を考えながら、課題を設定できるようになること」である。一つの探究のプロセスには、「課題設定」の場面は一度しかないため、1単元を三つの小単元として再構成し、「課題設定」を三度行うことができる探究のプロセスとした(図12)。また、生徒が地域の課題と自分との関わりをより一層意識して課題が見いだせるよう、地域と連携した探究活動にすべく検討を重ねた。

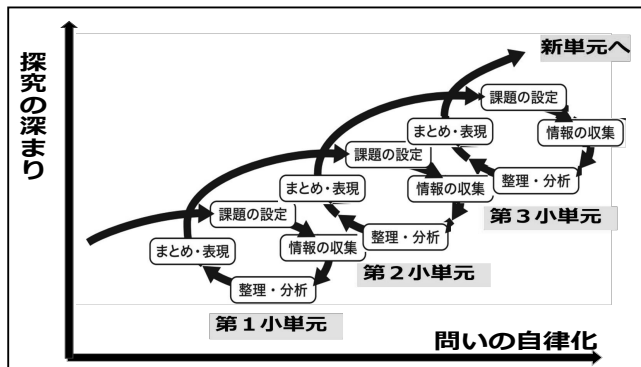


図12 小単元を複数組み込んだ単元構想

【第1小単元：探究を知る】

生徒自身が「探究学習とは何なのか」、「なぜ探究するのか」について考え、探究学習のプロセスや特徴、調べ学習との違い等について学ぶ。探究学習は、探究のプロ

セスを何度も繰り返しながら進めることだと気付くことができるようにする。

### 【第2小単元：実際に探究学習をしてみる】

身の回りの簡単なテーマを基に、教員が立てた問いに対して調査を行い、その結果について考察しつつ、さらに新しい問いを考える練習を体験的に行う。その中で問題の発見や課題設定に必要な「知識及び技能」や「考えるための技法」、「探究の進め方」等を習得していく。

### 【第3小単元：ガイド付きの探究】

地域探究という大きなテーマを基に、生徒が自分との関係で課題を設定し、自己の在り方生き方を考えながら、地域の課題解決を目指す。

### ③ 実際

B高校の地域探究は、2019年の東日本台風の教訓を後世に残そうという取組である。ここで実施したのが全学年で取り組むフィールドワークである。特に、第1学年では、探究基礎の第3小単元「地域探究防災マップづくり」として位置付けた。第1,2小単元において、A高校同様に探究のプロセスに応じた学び方を身に付けた生徒が、それらを生かしつつ、問いを自律化させていく。

まず、問いを生むため、個別最適化された学びの場を保障した。被害の状況を現場で感じ、当事者意識をもつことで、自己の在り方生き方を考えた課題となるよう配慮し、自律化に向かわせた。

以下、具体的に問いの自律化がどのように図られたのかを5段階で表現する。

#### ア 自律化レベル1＝当事者意識が芽生える

第1,2回目のフィールドワーク(図13)では、教員が生徒の興味・関心と地域素材をつないだ。被災地域の方から被害状況について説明を聞く中で、



図13 フィールドワーク

生徒に当事者意識が芽生えていく様子が確認できた。しかし、生徒は現場に圧倒され、ぼんやりと問いをもち始めるもの

の、言葉として表出できないようであった。

#### イ 自律化レベル2＝問いが自分事となり、自分らしい自分だけの問いを生む

生徒にとって興味ある地域活動となってきたとはいえ、第3回目のフィールドワークでも、浮かんだ問いを地域の方に質問することに躊躇していた。そこで、教員はその後の授業で、第2小単元までで身に付けた「問いを広げるワザ」や「探究する問いを設定する技法」を活

用し、「課題設定」の授業を行った。グループ内での問いの共有により、生徒が問いを自律化させ、自分たちと関わりの深い課題を設定する姿を見取ることができた。

#### ウ 自律化レベル3＝問いが深化し、自分の進路展望にもつながる

第4回目のフィールドワーク、炊き出し訓練では、生徒はすっかり地域に馴染んでいた。地域の方々から東日本大震災時の貴重な話をうかがったり、自分の問いを自然な形で質問したりすることを通して、自己の在り方生き方について考えることができた。それらの体験を後の授業で振り返ることで、問いがさらに自律したものへと進化し、より探究的に学習に取り組む姿につながった。

#### エ 自律化レベル4＝問いのさらなる進化に向けて、生徒自ら行動する

探究がより主体的になってきたことで、役場のホームページの質問コーナーを見つけ、防災担当者に質問するグループもあった(図14)。

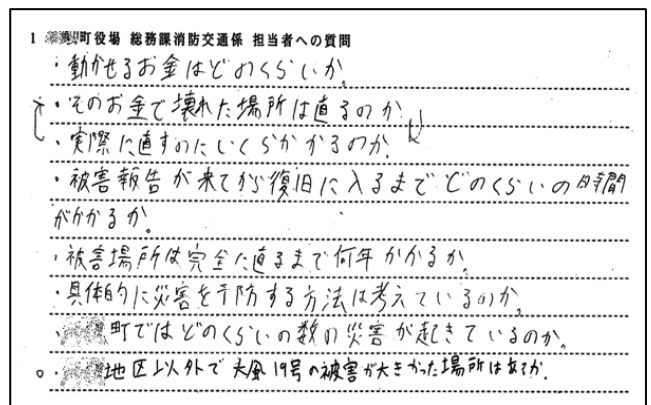


図14 役場ホームページへの質問

#### オ 自律化レベル5＝新たな問いを生み出し、問いを高度化させる

役場のホームページに質問するグループの様子を見ていた担当教員は、急遽、役場の防災担当者を招く出前授業を構想した。コロナ対応により、事前集約した質問を全体的に説明してもらったが、個別質問コーナーを設置す



図15 個別質問コーナー

ることで、生徒の追加質問に応じた(図15)。それにより、全体説明を聞いた後に新たに生まれた問いを、担当者に直接質問する生徒の姿があった。生徒の学びの状況に応じて、柔軟に単元計画を組み直す教員のカリキュラム・マネジメントが、問いの自律化につながった姿である。

#### IV 研究のまとめ

##### 1 事後調査結果分析（A高校は単元の途中であったため、単元を終えたB高校のみに実施）

###### ① 生徒への意識調査

生徒に「中学校と高校の『総合』の学習内容に違いはありますか」と質問したところ、以下のような結果になった（図16）。

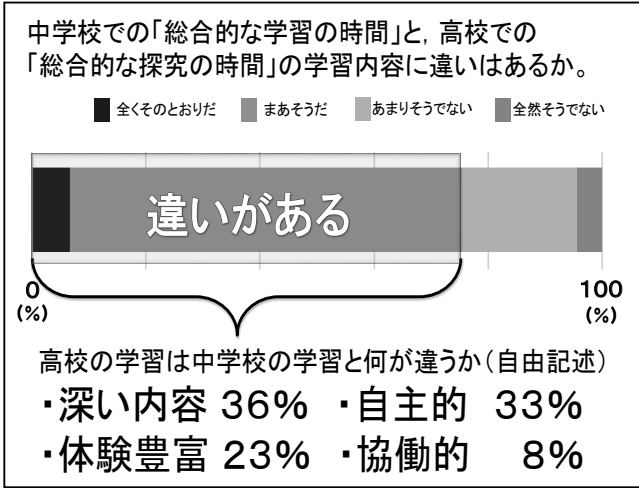


図16 生徒の意識調査の結果

上記のとおり、7割を超える生徒が、中学校の学習との違いを感じている。その違いとして、総合的な探究の時間の方が、「深い内容」、「自主的」、「体験豊富」、「協働的」と答えている。これは、探究のプロセスにおいて、主体的・協働的に探究したことが、探究活動に必要な知識・技能の向上につながり、それらの成長を生徒自身が実感したことを表していると推察される。

###### ② 教員への意識調査

探究の四つのプロセスに関する項目についての実態調査を、7月と10月で実施し、4件法の平均値で表した。

主な結果は、次のようになった（図17）。

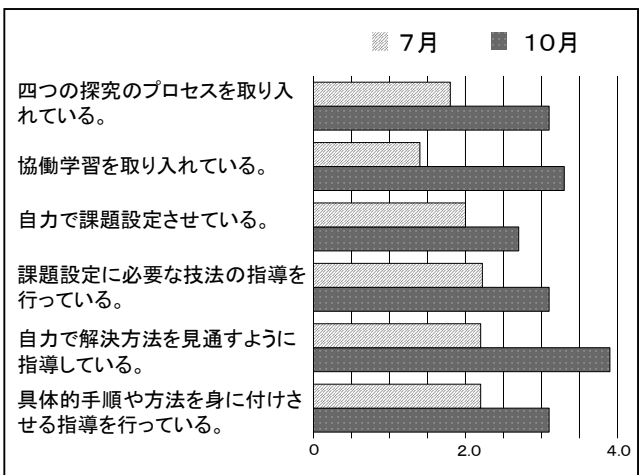


図17 教師への意識調査の結果

ほぼすべての質問において、意識の向上が認められた。これは探究のプロセスで用いた指導用教材、特に、課題設定に必要な技法を指導する際の資料等が、教員の授業構想に役立ち、指導法が明らかになったためであると考えられる。

##### 2 研究の成果と課題

###### (1) 成果

- ① 実態調査を行ったことにより、本県教員の課題意識に沿った研究を推進することができた。
- ② 探究のプロセスについての調査から、総合的な探究の時間の授業を実際に進める上でのポイントを焦点化することができた。
- ③ 総合的な探究の時間の指導の在り方について、四つの探究のプロセスにおける指導法、特に、「課題設定」の指導法について、具体的指導資料を作成することができた。
- ④ 総合的な探究の時間の指導法のポイントを整理したリーフレットを作成し、Web発信することができた。

###### (2) 課題

- ① 各校で目指す資質・能力の明確化とカリキュラム・マネジメント

育成を目指す資質・能力は、各学校によって異なるため、学校経営・運営ビジョンに照らし合わせ、カリキュラム・マネジメントの視点から明確にしていく必要がある。

総合的な探究の時間を学校全体の取組として位置付け、教育目標と係わせながら、総合的な探究の時間の中での教育目標や育てたい生徒像等を明確にし、主担当者と教員間で情報を共有しながら、協働的に進めることが大切である。

###### ② 適切な学習評価と教育課程の評価

学習活動の進展と照らし合わせて、柔軟に単元計画を組直す等の指導と評価の一体化や、次年度の教育課程編成を視野に入れた取組が必要である。

##### <参考・引用文献>

- 1) 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編  
(文部科学省 2017年)
- 2) 未来を拓く探究シリーズ 総探ナビ  
(株式会社ベネッセコーポレーション 2022年)
- 3) 一生使える探究のコツ 入門編  
(株式会社トモノカイ 2022年)
- 4) 高校教員のための探究学習入門  
(ナカニシヤ出版 2021年)

## 資料編

### 資料 1 < 課題設定のコツ >

**課題設定のコツ!**

「あー、気になる!」という、思わず探究したくなる「問い」を見つけよう! (「問い」=疑問)

**Step1 「問い」をたくさんつくる**

① 5W2Hを参考にしながら、思い浮かんだ「問い」を書き出そう。

Why(なぜ?) When(どこで?) Who(誰?)  
What(何が/何を?) How(どうやって?)  
How much(どのくらい?)

② さらに発想を広げてみよう。

・時間を変えてみると? ・場所を変えてみると?  
・立場を変えてみると?

**Step2 「問い」を友達と共有する**

① 自分と友達「問い」を比べよう。

・同じ「問い」は重ねる。  
・似ている「問い」は近くに置く。

② 「問い」をいくつかつかにまとめよう。

・似ている「問い」をまとめて、いくつかのグループをつくる。  
・異なるものをつけられるとさらにいい。

**Step3 「探究できそうな問い」を考える**

① 「探究できそうな問い」をしらぼう。

・自分の生活や将来に関わりがあるか。  
・調べただけで済まないか、答えがわかってしまうものにならないか。  
・自分が興味をもてるか。  
・追究していく価値がありそうか。

**Step4 「自分の問い」を決める**

① 「探究する問い」を選ぼう。

・クラゲチャットに選んだ「問い」を書く。

② いくつかの自分の「問い」から、自分の課題を設定しよう。

・「問い」は変わってもいい! なくなってもいい!  
・どんな変わっていくものと考えよう!

### 資料 2 < 情報収集のコツ >

**情報を集めよう**

探究において情報の収集は必要不可欠。情報収集によって、課題がより明確になり、問題を解決するために何をすべきかわかるようになる。「今、わかっている情報はどんなことか」「課題解決のためにどんな情報が必要か」を整理した上で、必要な調査を実施し、情報を集めよう!

**文献調査**

たれかがまとめ、記録したものを使って情報を収集する

**特徴**

- 体系的にまんべんなくまとまっている大変便利
- 幅広い情報もある
- 複数の情報源に当たるとよい
- すべての探究で使える

**アンケート**

複数の人に対して、調査票を用いて情報を収集する

**特徴**

- 多くの人の傾向や考えを知ることができる
- 専門的知識や経験がある人から情報を入手できる
- 集めたデータを分析しやすい
- 集めない課題や理由を入手できる

**インタビュー調査**

特定の人から話を聞いて情報を収集する

**特徴**

- 専門的な内容や現地の詳しい事情など生の情報を入手できる
- 集めたデータだけではわからない課題や理由を入手できる

**実験・観察**

課題に対して立てた仮説が正しいかどうかを特定の条件下で測定し情報を得る

- 状況がどうなっているのか、実際に目で見て確認する

**特徴**

- 実験
  - 準備が必要になったり、時間がかかったりすることもある
  - 計画が必要
- 観察
  - 観察や準備が必要
  - 場合によっては学校から許可を取ることが必要

**いろいろな方法があるけど、課題解決に一番よい方法は? やりたい方法はいろいろあるけど、自分たちが実施可能か?**

・調査方法をよく検討する  
・組み合わせや順番も大切

### 資料 3 < 整理・分析のコツ >

**集めた情報を分析しよう**

集めた情報は、整理したり分析したりすると、自分の考えを導きやすくなる。今までの各教科の学習で学んできた知識や技能を結び付けたり、考えを出し合ったりしながら課題を解決していきこう。分析は、考えを細分化し、因果関係(原因と結果)を明らかにし、自分の考えを説得力のあるものへと進化させてくれるはず!

**分析の目的を明らかにして、適切な分析方法を選ぼう!**

**情報を数値化して、説得力UP!**

- 数値や割合を示す
- データの大小を比較する
- データの変化を示す

分布を見たい! → 表や図など

比較したい! → 棒グラフ、円グラフ、帯グラフなど

変化をつかみたい! → 折れ線グラフなど

関係をみたい! → 2次元表など

**情報を言語化して、説得力UP!**

- 理由や根拠、その強弱を示す
- 結果と原因の関係を分類する
- 順序よく論理的に分類する

特徴や原因を掘り下げたい! → フィッシュボーンなど

特徴や原因を順序よく整理したい! → ロジックツリーなど

**自分の考えを説得力ある考えに深めよう!**

### 資料 4 < 振り返りのコツ >

**探究のプロセスを振り返ろう**

探究のプロセスをひと通り終えたところで、探究の振り返りを行いましょう。探究活動を通して身についた力は人によって異なります。自分の成長を感じ、自分の新たな一面に気づくことは、探究をよりよくするばかりではなく、進路選択や教科学習など、いろいろな活動に応用できるのです。

**探究の内容について振り返ろう!**

①最終的に取り組んだ課題  
②課題に対する答え・分かったこと  
③もっと知りたくなったこと

**探究のプロセスについて振り返ろう!**

①実践したこと  
②最もがんばったこと・工夫したこと  
③今後探究を行うときに気をつけたいこと

**新たな自分を知ろう!**

①自分は何に興味があるか?  
②自分は何が得意なのか?  
③自分は何を大切にしているのか?

たとえ探究の結果が思うように出なかったとしても探究のプロセスにおいてかけがえのない経験をしました。実はそれが最も大事なこと!

**この振り返りを生かして次の探究へ! Let's Go!**